

11月17日(日)・ぱれっとで講演会を開催

「なぜ、巴旦杏は寺田李になったのか」

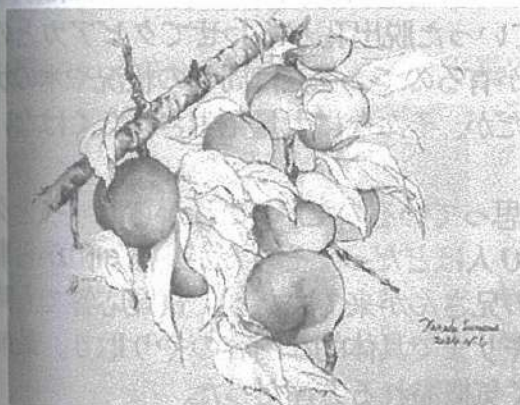
森澤昭夫さんのお話し

6月に和訶羅河第9号の発行を伝える記事が洛タイ・京都・読売各紙に掲載されたのを契機に、寺田李とはどんなもの?とかおじいさんがつくっていたことを覚えているなど寺田李への関心が高まっています。そこで会では山背古道さんの協力や市教育委員会の後援もえて、寺田李の講演会を企画しました。是非、ご参加ください。

○ 講演会の概要は次の通りです。

巴旦杏(はたんきょう)と呼ばれていた品種を改良、寺田李と言われる果物があります。今ではほとんど見る事が出来なくなりましたが、その李を誕生させた森澤善六氏の末裔である森澤昭夫氏に品種改良の努力や最盛期だったころの様子を語って頂きます。

森澤氏は昭和3年生まれ96歳、元気に李畑などの手入れをされておられます。また、かつては城陽産の梅や竹を加工して茶杓を製作する茶杓師としても活躍されていました。寺田李の誕生話を通じて、古い時代の寺田村の様子や出来事などもお話しをされます。



寺田李のスケッチ画

とき 11月17日(日) 午後2時～4時

ところ ぱれっとJOYO 会議室

お話し 森澤昭夫氏(茶杓師 寺田北東西在住)

参加者 20人(先着順)

参加料 無料

後援 城陽市教育委員会

*寺田李のコーナーやバラ科(梅や桜、寺田李など)の樹々を枯らす、外来カミキリ・クビアカツヤカミキリのコーナーなども設ける予定です。

*講演会終了後、引き続き11月の例会を行います。こちらにもぜひご参加ください。講演会の感想やこれからの取り組み、みなさんのご近所で行われる季節の地域行事の情報交換などを話し合います。ニュース・和訶羅河の発送作業もあります、お時間が許せばお手伝いください。